

令和5年度 第1回栗東市市民参画推進委員会

- 日時 令和5年7月4日（火）13:00～14:30
- 場所 栗東市役所庁舎2階 第2会議室

- 出席者 新川委員長、川邊副委員長、村田委員、石橋委員、太田委員、池田委員、宮川委員、幡委員、多々良委員、西川委員、平岡委員
市民部：西村部長
自治振興課：山本課長、大西課長補佐、谷村主査、中村主事補

議事記録（概要）

1.開会 進行：自治振興課長

2.市民憲章昭和

3.あいさつ

（市長）

皆さんこんにちは。本日は第1回栗東市市民参画等推進委員会を開催するにあたり、平日お昼一番の大変出にくい時間にも関わらず、ご参集を賜り御礼申し上げます。

また平素より栗東市の各般にわたり、皆様方にはそれぞれの立場で、またそれぞれの地域で大変お世話になっており、またこの市民参画等推進委員会において委員のお引き受けをいただいたことも、重ねて御礼申し上げます。

市民参画等推進委員会の趣旨である市民の活動、或いはいろんな団体をしっかりと盛り上げていくため、ご審査やいろんな議論をいただくわけであるが、この3年間、コロナで地域活動が停滞していたのも事実である。そのような中で何とか市としても、皆様の下支え、また少し背中を押すことで、そこが動き出すことができないかと取り組んできた。

ただ、それが実態としてなかなか上手く行き渡っていないのも私の承知をしているところである。今までしてきたから、同じようなことをしていたらいいというわけではなく、新たなステージに入ったところで、いろんなやり方をしていけばいいのではないかと常日頃から思っている。今日は委員皆様の忌憚のないご意見をいただき、もっとこんなことをしたらどうか、或いはもっとこんなことできるのではということ、ぜひ前向きなご議論をしていただければ幸いである。実のある会議になるよう、大変厚かましいお願いではあるが、ご挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしく御礼申し上げます。

4. 委嘱状交付（机上配布）

5. 委員の自己紹介

6. 委員長および副委員長の選出

委員長：新川委員　副委員長：川邊委員

（委員長）

委員長にご選任いただき感謝申し上げます。前回に引き続いてであるが、皆様方のご協力を得て本市の協働参画がさらに発展していくよう、充実した委員会にしていきたいと思う。先ほど市長の挨拶にもあったとおり、この3年ほどの間、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり本当に市民の活動を皆さんでいろいろ工夫しながらやってこられたという状況である。コロナウイルスも2類から5類に引き下げられ、少し状況が変わってきた。また、感染症が流行してる中でも、それぞれの活動をいろいろ工夫して何とか続けていこうという努力をされてきたということも存じ上げている。

その点でも、状況が変わったことでさらに新しい工夫が大きく広がっていく、そんな機会に今回はなるのではないかと思う。

栗東市の市民活動が定着して、いろいろ育ってきたという側面と、一方では、残念ながら、活動が少し停滞をしてしまっているところがあるかもしれない。改めてこれからの時代、本当に本市の市民活動、そして地域の活動が活発になっていくような議論を皆様とご一緒にできればと願っている。よろしく願います。

7. 栗東市市民参画等推進委員会の公開について 傍聴者1名

8. 報告事項 進行：新川委員長

○令和5年度実施事業について…資料1に基づき事務局より説明
（元気創造まちづくり事業、未来へつなぐ市民活動応援事業）

（委員長）

先ほど報告もあったが、それぞれの制度が活発に使われているかという議論もあると思う。

ご紹介いただいたように元気創造まちづくり事業についても、団体の数が当初に比べると、少し低迷気味というところがある。未来へつなぐ市民活動応援事業も実際寄附を集め、それをふるさと納税の形にして活用する手順を踏んでいくのもなかなか大変なところがある。

こちらは継続事業もあるため、一定数団体が確保できるが本当はもっと活用していただきたい仕組みである。

そして協働事業提案制度は応募が全くない状況で、今年度は新しく種類を作ろうと進めてこられたところであるが、後程の今年度の事業としてご意見をいただければと思う。

(副委員長)

未来へつなぐ市民活動応援事業の栗東生活支援協議会は社会福祉協議会の中で事務局をしていると思う。生活支援協議会と社会福祉協議会の会計は全く違うのか。

(委員)

全く違う。

9. 協議事項

○協働事業提案制度審査委員について

…資料2に基づき事務局より説明

(委員)

事務局案はあるか。

(事務局)

事務局案を申し上げる。

西川委員、平岡委員、幡委員、川邊委員、石橋委員にお願いできればと考えている。

今回委員になられた皆様には、一次審査及び二次審査にご出席賜りたくお願い申し上げる。

○令和5年度市民参画と協働によるまちづくり推進に関する事業計画

…資料3に基づき事務局より説明

(委員)

新しくできた協働事業提案制度の連携支援型を4月から募集を始めているということであるが、各課も急に言われても困ることがあると思う。今までの付き合いの中で、市民活動団体との関係ができていく中で、協働事業でしたいと思うことがあるだろう。そういう各課への浸透として、自治振興課は、どのような周知をされていて、各課の反応はどのようなものか教えていただきたい。

(事務局)

職員用の掲示板に掲載し、関連する課があれば声をかけていただくような手続きをしている。ただ、掲示板であるため、一方的な情報提供になっている。それだけでは反応が鈍いため、もう少し改善していこうと考えている。関連する部署にチラシを持っていき、制度について話をし、掘り起こしをしていく。

ただ、何件かは市独自に活動しておられ、協働事業に該当するのではないかという話があるが、担当課からの声ではなく、違う関連する方からの声である。周知の方法を変えていかないと担当課自体の動きにはならないため、強化していこうと考えている次第である。

(委員長)

ぜひ手を挙げてくださる団体だけでなく、庁内各ご担当でも、様々な市民の皆さん方との関係をお持ちであるため、この協働事業提案が積極的に出てくるように、ぜひご担当としても働きかけを積極的にお願したい。

(委員)

最初にご説明いただいた行動計画における各課の取組を見て単純に面白いと感じた。担当課であるため、自治振興課が目立つのは致し方ないと思う。他の課で、例えば産業関係や教育委員会、教育関係の部署からほとんど上がってないのが少し気になった。

特に教育関係では学校の中で、相当地域の方々のサポート、支援を受けている。若干当たり前のように思っている部分が学校側にあるかもしれない。協働や参画は非常に重要であるため、そういったものもぜひ位置付けてもらいたい。産業系或いは観光も参画や協働による取り組みがあるかと思う。そういった情報がないのは少し残念に思う。

理由とか事情がいろいろあるかと思うが、改めて「そういった取組も参画協働の取り組みだ」ともう1回気づいてもらうよう少し強調していくことも必要だと思う。

(事務局)

他の部署に所属していると、補助金ももらわずに地元の方と活動等に取り組んでおられる団体とのかかわりもあった。現在制度の内容を知ってみると該当する団体もいたように思う。

おそらく教育関係の学校や保育園、関係担当課に制度の情報や該当する活動についてうまく伝わってなかったのかという思いを持っている。

該当する取り組みなどについても直接担当課に話に行き、掘り起こしをしていくことが必要である。

おっしゃるとおり教育部局や観光部局には独自の繋がりがあるだろう。今まで繋がって活動しており、当然のことだと思っておられ、協働という認識がないことも考えられる。そういった部分にも声をかけて、申し込んでもらえるよう担当課として取り組んでいく。

(委員)

今の回答により課題がクリアになり、よかったと思う。やはり情報共有が大事であるということが見えてきた。掘り起こしをすれば相当のポテンシャルがあるのではないか。

掘り起こすためにも、中間支援組織も大事な存在だと思う。

(委員)

応募者が少ないのはやはり寂しい。助成金は、ある一定の時だけしか募集してないが、担当職員としては一年中言い続けることがすごく大事だと思う。タイミングがあるため、期間がずれてしまう方は多分いらっしゃると思うので、そういう声掛けもしていただきたいと思う。

また、相手の方に強制するのは難しいが、実際に補助を受けて活動してくださった方が、補助金使ってみてよかった、助かったと言ってくださることが積み重なっていくといいと思うので、ぜひぜひまた皆さんでお声掛けしていただければと思う。

(委員長)

市役所全体が制度の活用していただけるような広報媒体になって、そして活動を実際に行った市民の方々に積極的に情報発信を行っていただきたい。交流会が予定はされてるが、1度だけのイベントであるため、そういった方の声が日常的に伝わっていくようにするのも情報交換、情報交流の大事なポイントかと思う。庁内庁外含めた交流ができるようにぜひ進めていただきたい。

(副委員長)

栗東市の職員は現場をよく知っている。できたら出向制など外に出てやられたらどうか。栗東市の職員を退職して、NPO法人を立ち上げられた方もおられるが、そういう動きを市の職員の皆さんができるだけ当事者意識を持って増えたらと思う。今の提案もそういう形で考えてもらいたい。

(委員長)

退職をして頑張ることももちろんいいが、ちょっと残念なところもあるため、職員として飛び出す公務員みたいなものがあるって、ぜひ外に出て頑張っていただくような職員の方もたくさん出てくるといいと思う。そういう市役所の雰囲気づくりや風土づくりも大事かと思いつつ聞いており、今後の課題ということで考えてみていただければと思う。

(委員)

大体いろんな制度内容を決めていただいている。一般住民の方によると、例えば自分の活動が制度の内容に値するのかがわからない。もし応募をしたとしたら、プレゼンをしないとい

けなくて、そのプレゼンはどのようにしたらいいのかわからない。

団体さんにとってはわからないことが大変たくさんある。そこで中間支援組織がどのような支援をしていけば、応募者数が増えていくのか考えなければならない。現在、応募者数が減ってきている。啓発していたかもわからないが、実際は住民の方が参加をしようという雰囲気にはなっていない。それはどこに原因があるのか、そのあたりの分析をしていかないといけない。これから先この事業を続けていくとしても、少し原点に戻って考える必要があると思う。住民の目線と市の目線のギャップを埋める中間支援のアドバイスの仕方などを一旦整理した方が、今後のためになるだろう。

(委員長)

重要なお指摘をいただいた。事務局でこれまでの支援の仕方、特に最初のきっかけづくり、制度の仕組みに入りにくさがあるが、どういうふうに解消していくのか。またそれを支えていくような中間支援のありかたなど、少し現状も踏まえて、ご説明いただければと思う。

(事務局)

活動に取り組んでる団体に声をかけようと思っているが、実際声をかけても、プレゼンなどはしたくない、申請自体からわからないという話にはなるかもしれない。協働のまちづくりであるため申請者自体も手続きをしてもらわないといけないが、その支援をいかにしていくかという部分で、非常に重要なお指摘であった。実際、問い合わせに来てくださった方も何人かおられる。しかし要項をもとに説明をしていると難しく感じられる。情報提供をしていくことは大事であるが、どのように伝えていくかを考えていかなければならない。

(委員長)

本当はボランティア市民活動センターあるいはコミュニティセンターがこうした活動を広げる活動を積極的にやっていたかかないといけないところであるが、残念ながらそこまで至っていないということもあるかもしれない。このあたりを今年度の大きな課題として踏まえて、ぜひ協働連携してお進めいただければと思う。

(委員)

事務局の話をご共感して聞いていた。まず高齢者になられると、申請をどうしたらいいのかわからない。まずそこにハードルがあるので、実績報告や一次審査二次審査、もうこれを見るだけでやめとこう、自分らでやったほうがいいという雰囲気が出てくる。いかに最初の入口でハードルを低く見せ、難しくないイメージをつけるかが大事かと思う。

(副委員長)

事務局ではプレゼンテーションの講座もしてくれている。実際見学に来てもらえたらそ

んなに難しくないとわかってもらえると思う。

(委員長)

まずきっかけを作るところでどれぐらい入りやすいかということ。その上で少し努力もしていただかなければならないので、いろんな講座等でも勉強していただき、みんなで助け合いながら進めていく雰囲気をぜひ作っていただければと思う。

(委員)

9月にコミュニティセンターで30人ぐらい集めて折り紙を教えるボランティアをお願いされたが、市と協働するのが初めてである。これが協働だろうと思って、成功するように今折り紙で柿を作ろうと活動している。

こういう形で協働が少しずつできていけば、意見をいえるようになると思う。その中で、「活動費が少し出たらいいのに」など思いを伝えてもらえたらと思う。

(委員長)

各課でもいろんな取り組みがどんどん進み始め、事務局でも全庁的にどんな取り組みが進み始めているのかしっかり把握をしていただき、その中でご協力できるところ、ご支援できるところを各ご担当や各団体の方々にもご案内ができるような庁内体制しっかりとっていただければと思う。

(委員)

実際に制度を活用した経験から申し上げる。最初に要項をもらったときに、ものすごくかたく、難しいイメージがあった。やってみないかと声をかけられても、わざわざそこまでするのは少し面倒というのが正直な気持ちであった。実際に申請するとプレゼンや実績報告についても全部丁寧に講座をしていただいて、3年間無事に終わることができた。現在も順調にメンバーも増えて活動しているところである。私としては受けてよかったと思っている。その後も制度の案内はいただくが、もうそこまで準備してまではいいかと思ってしまう。やはり1市民としては、事業がいろいろあり、細かく決まっているため難しい。応募してみたら説明していただいて出来るが、自治振興課に来るまでのハードルが高いと思う。

(委員長)

自治振興課まで来ていただくためには、自治振興課が出かけていかなければならないかもしれない。

本当に募集要項を見て文字がたくさん書いているのを見るといやになるのもよくわかる。このあたりどのようにハードルを下げるか、応募を待っているだけではなかなか進まない。

本当に届くやり方を考えていかなければ、やはり応募が少ないままになる。新たな計画の

話にも繋がると思うが、このあたりも今年度から事務局でも努力をしていただきたい。

またこれまで市民活動をやってこられた方々からも、ぜひ周りの方にもお勧めをいただければと思う。

○栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条行動計画の策定について

…資料4に基づいて事務局より説明

(委員)

アンケートとして、一般の市民向けと地域企業事業所向けのアンケートを実施するのは良い。しかし一番肝心な実際にまちづくり活動や市民活動をしておられる当事者からの意見や抱えてらっしゃる課題や実情の把握はどのようにされるか。そこが抜け落ちてると感じた。アンケートで把握することが適切なのかわからないが、具体的なインタビューやワークショップ、座談会みたいな形でもっとより緻密に意見を把握する必要があると思う。

別途で計画されてるのか合わせて教えていただきたい。

(事務局)

お手元にある資料4-2の市民アンケートについては、7月22日に実施する募集説明会にご参加いただいた方々にもお答えいただこうと考えている。しかし、ご参加いただいた方々だけでは把握しきれない部分があると思う。アンケートについても実際に活動されている団体にもお答えいただけるように事務局で検討させていただく。

(委員)

市民団体関係者にもこの市民アンケートに答えていただくということか。実際の当事者の皆さんの活動の実情や抱えていらっしゃる課題などが見えてくるような、質問内容の方が良い。先ほども申し上げたとおり当事者にはアンケートよりも直接皆さんからしっかりと意見を聞いたり、課題を出し合って皆さんで解決策を話し合ったりする別の場を設けたほうが良いかもしれない。ぜひしっかりと現状課題把握及び分析について考えていただきたい。

(事務局)

従来、この市民アンケート及び事業者アンケートをもとに、計画を策定していた経緯があり、今回もアンケートを中心にと考えていた。先ほど委員の皆様の発言を聞き、制度を受けたり、受けようと思ったりしている団体からの意見が大事だと感じた。そういったことが計画を新たに見直すにあたって非常に重要である。

話や意見を聞く機会を設けて、来年の見直しに反映していくよう、事務局で進めていこうと思う。

(委員)

計画策定時には市民活動団体のデータベースや市民活動白書のような皆さんが使える情報源を整備されると、これからの議論や課題の解決につながるだろう。

(委員長)

事務局で次の策定の際に基本的な情報や市民の活動の状況、アンケートだけではなく現状に即して状況把握をしていただきたい。

(委員)

せっかく制度の仕組みがあるのに、利用されていないのであれば、利用する側の立場の意見を取り入れるしかない。いろいろある制度がどういう仕組みだと、みんなが利用しやすいのかを協働で取り組むのはどうか。ご利用になった方の体験や助成金は欲しいけど難しいことはできないと言っている方のご意見を全部出していただいて、それを担当課と協働で作っていく。ご自身が協働してみると、人にも進めやすくなるというのはどうか。

(委員長)

貴重なご提案をいただいた。今即答はしにくいと思うが、事務局でも今ご提案のあった参画と協働で市民の皆さん方が主役という作り方を目指してはどうか。

(事務局)

実際の当事者に集ってもらい、議論をしてもらうのは利用しやすい制度を考えていくために大きなものだと思う。事務局内でできる限り進めさせていただこうと思う。

(委員長)

実際に実行するのは大変だと思うが、可能な範囲で検討いただければと思う。
その他ご意見等あるか。

(委員)

審査委員が出なければならぬ日程を後ほど教えていただきたい。

(委員)

今回の会議で皆さんのお話で共感できる部分が多くあった。私も一市民として、自分で事業を進める中で、自治振興課で何をしてるのかを知ったぐらいである。私は子育て世代であるため、子育てに関連するところにしか足を運ばない。まちづくりという分野が身近なようで具体的にわかりづらいのが私たち世代の感覚かと思う。

おっしゃるとおり、やはりプレゼンをしないといけない、申請してからお金をいただける

までにすごく時間がかかるなども含めて、そこまでモチベーションを持たない。

それまでも書類をたくさん出すなどハードルが高いと感じる。お金をいただくため、それなりにしっかり段階を踏まなければならないのもよくわかるが、できるだけシンプルにしていれば身近に感じられる。

栗東市でも頑張りたい方はたくさんいらっしゃる。何かしたいけれども皆さん悩んでいるため、こういう制度が上手く繋がっていけば良い。今回委員会に参加する機会をいただいたので、そこにちゃんと繋がっていけるように、一般市民の中で情報共有することで、委員会に参加した意味を出していけたらと思っている。

(委員長)

市民の方々とも議論しながらよりよい制度にしていけたらと思う。

10. その他

11. 閉会 あいさつ

(副委員長)

本日はいろいろと感謝申し上げます。これからもよろしく願います。

最後に個人的なことを少しだけ話させていただく。なぜ日本に哲学がないのかと考えている。万葉集や源氏物語など文学は多くある。しかし、哲学は40年以内にはないということを考えて自分のテーマにしてきた。

日本の自然というのは大変豊富で、恵まれていたため哲学はいらなかった。不可能であったという結論になる。逆に自然が小さくなったら、哲学が必要になる。どういうふうに社会を築いていくか考えていく必要がある。

特に選挙権が18歳になったため、高校で現在今どういう状況にあるかという現代史をしっかりと教えて欲しいと強く感じる。

僕らも若いときには現代史を教えることができなかった。しかし今なら現代史を教えることができる。そしてこれからあなたたちはどういう社会を作っていくんだと考えていかなければならないと若い人に伝えたい。新しい栗東市をどういうふうにつっていくかもその一環である。

できたら選挙権18歳になったので、高校で教育をして、みんなと一緒により良い日本の社会にどのようにしていくのかを考えながら取り組んでいきたいと思っている。

50年考えてやっとこういう結論になった。これからも日本の社会について考えながら一緒に考えていきたいと思う。